

夢よひろがれ

もっと



10

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL. 058-233-7445
FAX. 058-232-9140
E-mail. ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)

2017年10月20日発行

日光町の民家を改築し、新しいサテライトいぶきとして
スタートしました！



毎月1回『にっこりマルシェ』を開催！
新鮮野菜やいぶきの商品など販売しています。

※天候やその他状況により開催できない場合があります。

もくじ

- 2-4 保護者会 後援会報告
- 5 第二いぶきなつまつり報告
- 6 見学会開催報告
- 7 初任者研修報告・
福祉車両寄贈報告
- 8-9 いぶき仲間のすがた
- 10-13 座談会
- 14 イベントのお知らせ
- 15-16 情報掲示板



きれいなお部屋で引越祝い

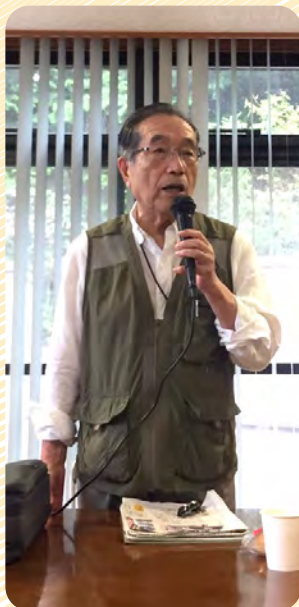
心地よい季節になってまいりました。
外出すると、つい先日まで暑さを逃れ、涼しさに喜びを感じていたのが嘘のようで、
今は太陽の暖かさにほっとします。
読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋、たくさんの方が楽しい時期です。
いぶきでも仲間たちが楽しい秋を過ごしています。
今号でもたくさんのお届けします。

2017
autumn
Vol.192

保護者会 講演会

片桐義之さん

9月22日、第二いぶき保護者会にていぶきの元理事の片桐義之さんをお招きして講演会を行いました。講演の要旨を皆様に紹介させていただきます。



「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。

この話は、中国の故事で、「城塞に住む老人の馬がもたらした運命は、福から禍（わざわい）へ、また禍（わざわい）から福へと人生に変化をもたらした。まったく禍福というのは予測できないものである」という意味ですが、私も大

変不幸にあつたように見えただけ幸いしたという点で（この言葉は）まさしく今の私を表しています。

共産党の議員をしていましたが、議員はとても大変な仕事で、毎日会議ばかり。移動は車、その上私がお酒が好きときているものから、市会議員を16年やって、そのあと県議会議員を

16年やった95年の県議会議員選挙の直前、風邪をこじらせてこっそり入院をしました。その際、医者に言われたのはとにかく歩いて体を動かしなさいということでした。それから、近くの公園1周500メートルを毎朝8周歩くようになって、どんどんどんどん調子が良くなつて、当時は80代に生きていられる（くらい）健康を維持している（くらい）なんて考えられなかったですが、今度1月が来ると85歳。まだまだ元気でやっております。そして今日、昔話をしないかと誘われて喜んできました。

私は昔、野村容子さんと二人で共産党の市会議員をしていました。当時電電公社岐阜電報局で通信士をしていて、野村さんは岐阜電話局の交換手で、全電通労働組合で組合運動をやっていて、電電公社出身の議員でした。教育・福祉は野村さんが

担当してそれ以外は私が担当していました。いぶきの活動は野村さんは初めから関わっていて、竹中さんとともに無認可の共同作業所作りの活動していました。あるとき何とかしていぶきが自前の施設を作って法人認可できないだろうかという話が持ち上がりました。準備会ができ、今も理事長をされている横山弁護士が準備会会長になって、野村さんの骨折りで島支所が廃止になった後の建物を共同作業所として使い始めることができました。

それがいぶきの最初の出発の時期です。ところが島支所を借りているところにいろいろなクレームがつきました。地元の議員からも市の施設をなぜ貸しているのかということ声が上がりましたが、市長をはじめ市役所の幹部の人たちは、いぶきの人たちが親さんも仲間たちも支援者も、利益を上げるといふ気持ちがなく、

自分たちだけが良ければよいという気持ちも誰も持っていないということ、実はみんなよく知っていました。当時のいぶきの親さんは無私、「わたくしごころ」を一切持ち合わせておらず頑張っておられたということが今まで、いぶきが発展してきた基本にあると思います。

野村さんと一緒に支所の跡地をどうしても借りたということで、当時の市長の蒔田さんと話をしました。蒔田さんは元お坊さんで人を見る目があつて、私とも議会ではやりあつていましたが腹の底ではお互い信頼していました。なんとか力になってあげようと気持ちもあつて、貸与の約束を取り付けることができました。いぶきが社会福祉法人に認可されたら支所の跡地を貸してくれるという一筆を、蒔田さんの市長の任期が切れるというその日にくれました。後で知った



地元議員が抗議しようにも(もう市長はおらず)できないという離れ業で島のいぶきができたのです。当時いぶきを成功させるためには4000万の自己資金が必要でした、もちろんそんなお金などありませんでしたが、いぶきに期待をした親さん、社会福祉に興味を持ち障害者の立場に立って何とかしてあげようとした人が集まって、7000人の人が募金に協力してくれました。毎日、岐阜大学の竹内先生が中心になっていたいて、毎日夜9時から、今日のカンパはいくら集まったと話し合いをしていました。あの時は、みんな本当に死にもぐるいで、私たちには一銭にもならない、しかもガソリン代からなにまで自分たちで出して、これが本当の福祉だと私は勉強しました。いろんなエピソードがありますが省略しますがそんなことでいぶきが完成します。

そのあと、しばらくはまた福祉の分野は野村さんというところで、私自身は少しいぶきの活動からはななれてほかの活動をしていました。いぶきがどんな重い障害者にもという理念は大勢の人への説得力があったのだと思います。その間にも希望者がふえて、北東部の方に第二施設を作ろうという話になりました。あらかじめ取得していた土地で国へ補助金の申請をして地域の同意のお願いしに行きました。ところが仲間たちが危害を加えるのではないかとということで地元から同意がもらえませんでした。さあ困ったということで、しばらく離れていた私、片桐を呼べということで2回目のいぶきとかかわりが始まりました。実は私、その近くに在所があり、知り合いに状況を聞きましたがとてもすぐには同意をとれる状況にはありませんでした。同意書を国に出すには日にちが決まっています、あとひと月

のうちに同意書を出さなければいけません。もしそれが出せなければ認可は止まるわけです。これはいかん、どうするかということで、私が思い切つて方針を転換して、(今の場所でも同意を得るのではなく)とにかくこの近くで新しく同意が得られる場所を探そうということで、元三輪北自治会連合会会長の山口繁さん、知っている方もいるかと思います、中部浄化の現会長さんに話をしたんです。昔、ファミリパークの場所に住宅団地を作る予定があつたのですが、市の用地買収の際に一切不正はないのに三輪北自治会が不正を疑われたことがありまして、その際、市から感謝状を贈ってもらい、自治会の名誉を守つたということがに私は関わつたことがあります。結局、住宅団地を造るには、傍を流れる石田川の氾濫対策として貯水池を作らなければ

ばならない事情があり、計画は頓挫しました。その跡地利用に私が提案としたのが、今のファミリパークです。そんなことがあつて山口さんには、困つたときには相談にのつてもらえる関係にありました。私はまず山口さんに場所を固める前に三輪北地区に第二いぶきをつくつてもよいという一筆をお願いしました。それはちよつといくら私の頼みでも無謀だという話にもなりましたが、もう時間がありません。何とか同意書をいただくことができました。それが国への提出期限の3、4日前でした。それから、この土地なら大丈夫、あそここの土地なら何とかなるといういろいろ相談しまして、やはり地元が良かったといわれないとけないということ、今後施設を増やしていく際も協力してもらえらるということ、この地(出屋敷)になりました。そして、募金活動が始まります。わたしは「すべ

てを大衆に依拠する」。このことがいかに大切かということをここでも勉強させられました。あとからですが、駐車場を貸してくれるとか夜間無人でも見守ってくれるなど地域協力の話もできました。親さんの熱意、いぶきの理念、そのことを支援する大勢の福祉に理解のある人たち、この力が合わさっていぶきができたと思つています。これから大勢の市民の力をいかに大切に考えて、力を合



わせていくことが必要です。

その点では今の日本は国民が望んでいるように行っていないと思います。私は戦争が終わったとき中学1年生だったので戦争中のことはよく知っています。当時の日本の障害者はどうだったかというと、戦争に行けない、兵隊になれない人は生きていく資格はないということが政治の基本にあつたんです。障害者は自分が好きでなつたわけじゃないんです。こんなことは絶対にあつてはならないと思います。戦争は大きな会社兵器を作る銭儲けのために行われます。平和が続くと福祉や教育のためにお金を使えなくなるから、危機をあおり、国が危ないというのです。今もありま

鳴ると空襲警報のサイレンと聞き間違えるんですよ。いまだにトラウマがある。でも、そうやって恐怖をおられるんです。

今、北朝鮮がやっていることとはいいことではないです。核を作るといふことは悪いことです。しかし、本当に解決するには力ではなく話し合つて解決する必要があります。もし、間違つて戦闘が始まり、核のボタンが押されたら、広島の一千万倍ともいわれる核が使われます。すべての人たちがこの世に生まれてきたら生きる権利があるんだという人権を基本にして政治をやらなければいけないと思うんです。阿部さんは防衛と外交以外は国は一切やらない、福祉と教育は地方がやりなさいと言っている。福祉は切り捨てていくというのが、今向かっている方向です。そういういなかでいぶきの運動を前進させていくためには何が必要か、福祉・人権

こそ生きていくうえで重要なんだという憲法を守り、憲法に基づいた政治を行う、そしてそれを守るために市民と力を合わせて運動を進める。第一線で頑張っている皆さんが、運動の中に福祉で大きな前進を勝ちとつていく。皆さんの先輩が築いてきたいぶきは特定の人財布でできたわけではないんです。たくさんお金を出した人もいきましたが、千円、2千円の積み重ね、こういう下からの一つひとつの積みあげで今のいぶきができています。しっかりと皆さんに知ってもらいたいと思います。

これからは1人の若者が1人の高齢者を支える時代になるといわれる。これは戦争の影響なんです。戦争中は年寄りまで銃を持たせたので若者なんていなかった。この時期の子供は非常に少ない。戦後、20年以降ベビーブームが訪れました。その人たちが

が今年定年を迎え、年金生活を迎えています。私は9人兄弟ですがその当時は一家でお父さんが働けば何とか一家食えたんです。今は若い夫婦二人暮らしで、専業主婦では生活は大変です。ましてや子供がい

たら今の給料では大変です。こういう若者の生活の状況を押し付けて、子どもが少なくなるといってもダメなんです。若者に安定して生活でき結婚して子供を育てる政治をすれば自然と子供が増えます。今の政治は口先ではいいことを言うが、福祉なんて全く考えていない。こんなごまかしの中で、いま私たちは必死に生きています。特にこの分野で頑張っておられる皆さんの努力で、大勢の人たちにいかに福祉が大事か、人権を守ることがどんな人でも必要だということとを伝えてほしい。

私は、終戦直後に薬品会社へ一度勤めたことがありますが、そこに私より3つくらい上の障害者の先輩がいました。当時、会社に来客がしょっちゅうあり、履物を脱いでいくのです。その先輩は几帳面に朝から晩まで来客の履物をそろえるんですね。それを会社の人がほめるんです。この子は障害はあるがほかの人にはこんなに几帳面にできない、真似できない、この子だからできるんだ。そんなふうに言っていたのを今でも覚えています。どんな人も人間として必ず役に立つ。人が人として大切にされる社会を作っていく、それを守っている、頑張っている皆さんとその次の世代の人たちががいぶきを守り、発展させるために、大きな努力と運動を頑張っていたことを思い出します。そのことをお願いして、まだ言い足りないことがいっぱいありますが、時間になりましたので終わりにしたいと思います。



今年も大盛況のなか第18回第二いぶきなまつりが行われました。当初雨も心配されていましたが当日は晴天の中まつりを開催することができました。例年通り当日はたくさんの方々のご協力の下フランクフルトや唐揚げ、くじや風船など多くの模擬店が立ち並び終始活気をみせていました。仲間の商品の販売を行う店も大盛況でした。まつり限定のフルーツゼリーパフェをはじめ、りすのほっぺジャム、ポケのーと、染め物などいぶきの商品を買っていただいたり知っていただく



い機会となりました。普段店先に立つことの無い仲間も呼び声を上げたり、商品を紹介したりと張り切っていました。ステージでは今年も各団体がまつりを盛り上げてくれました。1部は勇爽太鼓さんのパフォーマンスとミナモダンスを行いました。今年は事前の仲間のアンケートから『太鼓をたいてみたい』と要望があり

り勇爽太鼓さんに相談したところ快く了承いただき、みんなで参加させていただきました。なかなか触ることのできない大きな太鼓をたたけて仲間も興奮気味でした。ミナモダンスでは、ミナモが来てくれました。踊りを知っている人も多く一緒に踊ったり歌ったりと一体感のあるステージとなりました。2部では今年から保護者の有志の踊りがあり、普段なかなか見ることのない姿に会場は笑いや驚きに包まれました。また、毎年恒例の職員有志の出し物では、今年流行した恋ダンスを踊ってくれました。お馴染みの曲に、身振り手振り真似



している人も多く見られました。ステージの最後は仲間による踊りです。auのCMでご存知の三太郎に扮しそれぞれ衣装に替えて披露してくれ、5月からの練習の成果を発表しました。まつりの準備の際、夜の部企画ではなにかみんな協力してできることはないかと考えモザイクアートの取り組みを行いました。来場者の方に一枚ずつ折り紙の切れ端



きくきれいな花火が完成し歓声が上がっていました。今年のまつりは「絆」つながろうみんなの輪」をテーマに行われました。地元出屋敷の方々や来場者の方々はじめ出店団体やボランティアの皆さん、ステージ団体、仲間、職員といった全員が繋がってこのなつまつりがあると思います。今年で18回をむかえたこのまつりですがこれからもみんなが繋がれる場として続いていけたらと感じます。



施設見学会を行いました

平成10年より教育職員免許に社会福祉施設や特別支援学校などにおいて、7日間、介護等の体験を行うことが位置づけられ、いぶきでも教員を目指す学生の皆さんの実習の受け入れも多くなってきました。今年度も法人で20名程度の学生の方が1週間程度実習をしています。実習をきっかけに、教育分野だけでなく、障害者分野に興味を持つ方もいますし、いぶきまつりなどの実習に継続してボランティアに来られる方もたくさんいます。以下に実習を終えた、生徒のみなさんの感想を一部、紹介します。

私は、実習初日に第二いぶきの仲間のこのについて何も把握していなかったのですが、どのように接していけばいいのかと不安になっていましたが、第二いぶきの方は優しく、丁寧に関わり方等教えてくださったので、少しずつ自分から仲間と関わる事ができるようになりました。また、5日間いぶきの仲間の様子を見ていく中で仲間の笑顔をたくさん見ることが出来ました。仲間が笑顔になっていると、私まで笑顔になりました。いぶきの仲間の笑顔を増やすために

は褒めることが必要だということも学びました。私は関わっていくすべての人の良いところがたくさん見つけれれる人になりたいと、この実習で思いました。5日間ありがとうございました。ございました。

今回の介護等体験をさせていたでいて、人との距離感が難しいことを改めて実感しました。それぞれ人に対してやって良いことと悪いことがあり、それは私の普段の人間関係でも共通していることだなと感じました。また、私自身いつも周りからいじられて受身だった部分を、今回自分が相手を楽しませる側になり、普段とは逆の立場で人と接することができた気がしまし

た。相手を喜ばせるための方法をいろいろ考え、その試みに対して笑顔をを見せてくださった時の嬉しさが大きかったです。これからの生活でも相手との距離感を意識し、一緒に楽しく安心できる人柄に自分になれることができたと思います。

今回介護等体験をさせていたでいて改めて相手に合わせたコミュニケーションを図る難しさに気づかされました。利用者さんの一人一人障害の種類が違い、言葉でのコミュニケーションが難しい方など様々な方がいる中で短い時間でコミュニケーションをどのようにつなげれば一番コミュニケーションをとれる

のか考えることに今回とても時間がかかってしまいました。コミュニケーションを取る事ができた後は一人一人を受け入れることができ、この一週間で私の中で障がいの方の考え方を変えることができて、とても充実した実習となりました。利用者さんの様子、職員さんの仕事の様子、大変さ、楽しさも知ることができました。



社会福祉協議会

初任者研修報告

新人職員研修として、岐阜県社会福祉協議会主催の福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（初任者コース）に6月の2日間受講しました。報告にの2回目を紹介します。

西部 サテライト
中島 由美子

初任者研修で学んだことは「チームワーク」です。いぶきという組織のチーム、部屋ごとのチーム、担当しているチーム。多くの職員が集まった一つのチームとして、そして仲間たちへの安心、安全のため、常にチームワークの確認をする必要があると思いました。福祉職のチームワークとは目標や方針を共有し、同じ方向へ向けて協力することです。

例えば、トイレ介助の際に職員によって介助の仕方が違ったりすると困るのは仲間です。もう一度支援の確認をし、どの職員も

同じ支援が出来るよう徹底する必要性を学びました。その為には非常勤の方達とも同じ方向を向く為に、しっかりと分かりやすく伝えていこうと思いました。

そして多くの非常勤の方たちは支援の際の安心、安全の為に何が必要かというのを知っています。その声に耳を傾け上司に報告し、仲間達が豊かな人生を送れるようサポートしていきたいです。

西部 ゆめくるん
谷山 静菜

私は今回、岐阜県社会福祉協議会初任者研修に参加しました。その中で、

仲間のより良い未来のために、過去を知り、今を把握していくことが大切なのだと強く感じました。これまで私は、仕事を覚えたり、目の前のできごとに必死になりすぎて、「今」の仲間の姿しか見えていませんでした。ある仲間の仕事上のこだわりに対して、悩んでいることを先輩職員に相談すると仲間の過去の活動の様子を話してくださいました。その中で積み重ねてきた支援と変わりがつつある今の姿ののだと納得したことがありました。今回の研修を通し改めて、より良い支援のためには仲間のこれまでの生活を知ることが大切なのだと思います。また、今の活動の先に未来の仲間の姿があるということに気づきました。これから仲間たちとより良い未来をつくっていくために、今できること、やりたいこと、やるべきことを考えていきたいと思っています。

24時間テレビ39 「愛は地球を救う」 福祉車両寄贈のご報告

平成29年3月16日（木）に、公益社団法人 24時間テレビチャリティ委員会様より福祉車両の贈呈をいただきました。

今回の福祉車両の整備により、仲間の地域への参加や社会参加の機会が増え、仲間一人ひとりがより楽しく、生きがいを持って生活することができると期待しております。

今回のご寄贈にあたり、全国からご寄付をいただきました皆様をはじめ、

中京テレビ放送株式会社様、24時間テレビチャリティ委員会様、ご尽力を頂きました関係者の皆様に謹んで感謝申し上げますとともに、皆様にご報告申し上げます。



※写真は納車時、仲間・職員代表で





「○○さん、おはよう！明日お休みだね！」。朝出勤して大きな声で挨拶をして一日が始まります。そんな松尾辰美さんのすがた、印象的なエピソードについて、紹介

いぶき 仲間のすがた

松尾 辰美さん

デイジー 加藤 裕一朗

させて頂きます。

平成2年、岐阜養護学校(現岐阜特支)を卒業後よりいぶきに通う松尾さんは、今年で27年目となる、いぶきの歴史をよく知る仲間の一人です。昔から人と関わることの大好きな松尾さんは、仲間やスタッフ、保護者の方を見かける度に「こんにちは！」

「○○君のお母さん元気？」と声をかけます。すると声をかけられたみなさんに「こんにちは！」「元気だよ！松尾君のお母さ

んは元気？」と返事をしてもらい、お互いに笑顔になります。

最近デイジーでは、週1回福祉友愛プールに通っています。その際には、プールサイドの係員さんに「もうすぐお



なっていました。ある日、プールの利用日に松尾さんがお休みし、松尾さん無しでプールに行くと、係員さんに「今日はみえないんですか？」と聞かれることがありました。後

盆休みだね！お盆は何するの？」と聞き、「お墓参りに行くよ」と笑顔で答えてもらい、嬉しそうにプールに入るといことが習慣に

日、松尾さんも一緒にプールを利用し、いつもの「もうすぐお盆休みだね！お盆は何するの？」と聞かれた係員さんは嬉しそうに

「お墓参りに行くよ！」と答えてくれました。なんだか良い姿だなあと、ほっこりしました。

そんな松尾さんですが、身体のしんどさや夜眠れないなどでお休みすることが月に数回あります。そんな日にも、「おお！今日松尾君は！」とファームの竹内彰さん、「今日は松尾君休みなの？大丈夫？」と、ゆめひろの仲間のみなさんを始め、多くの方から心配の声を頂きます。「松尾君、昔からよく知つとるで、心配やわ」と。みなさんもまた、松尾さんに会って挨拶がしたいのだらうなと思いました。

松尾さんと挨拶をされる方は、みなさん自



然と笑顔になります。私もそのうちの一人です。今日もあの質問してくれるかな？今日は初めてこんな質問をしてくれた！など、いつも笑顔にしてもらっています。松尾さんは人を笑顔にし、人から笑顔をもらうことのできる素敵な力を持っています。この素敵な力がいつまでも生きる毎日を送ってもらいたいと思います。

仲間のすがた を読んで

きざはしリーダー

森山めぐみ

私がいぶきへ異動して今年で5年目です。その頃松尾さんは月に何度かしか来ていませんでした。来てくれるのならばとお昼前に迎えるに行くことを繰り返し、来る日が増えて行きました。出てきても、「休んどう」と寝ていたがったり、何杯も水を飲んでトイレに通ったり、楽しそうではありませんが、でも本当は行きたくない日の中から鍵を掛けていたものの、誘われると断れなかったようです。最近では迎えに行くと「休んどう。明日行くう。」出てきてくれません。やっと自分の想いを伝えられる様に

なったのかも知れません。

加藤さんは、松尾さんに少しでも楽しみを感じて欲しいと願い、松尾さんの楽しみめそうな事をいろいろ提案してきました。公園への散歩や、食べる事も取り入れましたが「早く終わらせて休みたい」ため楽しむことができません。農作業での草を運んだり、水に足を入れての田植えは少し活動出来ましたが、継続は出来ません。

松尾さんの一番好きなことは、加藤さんの文章にある、質問して決まった応えが返ってくることです。逆に質問すると黙って離れて行ってしまいます。それでも松尾さんの気持ちに寄り添おうとしている加藤さんは、松尾さんが応えることができる質問をいくつか知っていて、松尾さんと会話を楽

しむことができます。

会話を楽しんだり、ドライブの途中の地名の看板の話をしたり、松尾さんが自分からやりたいと思う事を大切にしている加藤さんの姿勢は他の仲間たちからも信頼を得ています。来たくない日もある松尾さんですが、その事も認めながら、松尾さんがいぶきに居てくれる価値を仲間たちと共有し、来る楽しみが増えていくことを願っています。



座談会

※今回は4回シリーズの3回目です。

福祉の仕事とは③

出席者

池田：(いぶき施設長 勤務年数7年8カ月)

森：(第二いぶき施設長 勤務年数18年)

竹内：(司会・理事)

浅野：(第二いぶき職員 勤務年数6年)

小笠原：(いぶき職員 勤務年数3年)

加藤：(ゆめくるん工房職員 勤務年数4年)

河波：(第二いぶき職員 勤務年数2年6カ月)

〈前回からの続き〉

竹内：話を少し戻すけど、加藤さんは感情のコントロールといったことはどうですか？。自分の本心といった次元で、仲間と接するときには違和感といったことはないですか？。普通の生活をしている感情で、いぶきという仕事場でもそのままいけるのか、それともかなり違うというか。話を聞いていて、そんなことをちよつと感じたんだけど。仕事は仕事でやつぱり切り換えている？

加藤：切り換えています。

森：加藤さんにとっては、仲間が全員ほぼ年上でしょ。しかもほぼ親に近い年齢で、みんな、結構好きに言うよね。その中で、のやりとりで、ある

程度は、というかなんかなり認めてらうために「作る」ことはあるだろうし、でも言わなきゃいけない時は言わなきゃいけないから、そんなポジションのために何か自分をコントロールするとか、そこでの距離感には難しさがあると思う。僕なんかはほぼ同年代だから、ストレートに言えばいいけど、やつぱり子どもみたいな年齢の人に言われるので、最初は大変じゃなかった？

加藤：はい、大変でした。私が最初に部屋を担当した時、今もほとんどそうですが、仲間は皆年上の方ばかりで、私が一番年下でした。例えば部屋のDさんには、「私の方が年上だし」という気持ちがあつて、私に負けたくないといった気

持ちも初めはあつたようです。でも仕事で気をつけるべきことは、私も立場上伝えなくてははいけないし…。Dさんが気持的に仕事に向かえなくなつたときなど、私が仕事に入つて色々やるのが悔しいと感じたり、といった事があつたみたいで

す。何がきっかけかは分からないけど、Dさんは例えばFC岐阜が大好きなんですけど、そういう情報を私も普段から調べて、そんな話から入つて、Dさんとの関係をやるようにしました。少しずつ、心を開いてく

れてきているというのが、何かすごく実感としてあります。色々話してくれるようになってくれたのは、嬉しいですね。

森：そうですね、行きつ戻りつしながらね。

竹内：色々あつたところを、整理していくとおもしろいんだけどな。

加藤：そうですね。

竹内：今はそれで、負けたくないというような事をあなたが感じることはない？

加藤：そうですね、今はそういうふうには思っていない

とはないですね。

竹内：どうゆうふうには思っているの？。一緒に仕事をするから、それこそ加藤さんも本当に仲間になつた、ということになるのかな。

加藤：どうなんですかね？

Dさんは、自分の体のことで不安がある時、以前は興奮気味にわーつとなつて、「今日は私はこんなことがあつて嫌なんやて！歯医者があつて嫌なんやて！」と結構わめく感じ

だったんですが、今はソソソつと私に寄つてきて、こつそり「ちよつと私みんなには言えないんだけど、今日歯医者があつて心配なん」と前には絶対になつた感じになつて

ます。

森：悩みを相談する仲間になつたんだね。

加藤：そう、相談をしてくれている感じになつています。

竹内：関係がものすごく濃密になつてきたんだね、聞いていても楽しくなるね。

池田：(加藤さんが)近づいために自分もFC岐阜のことを調べたりとか、色々ね、合

う話の部分や接点を見つけていつてるわけだよ。その積み重ねでそうした関係性

ができてあがつてきている。浅野さんとは普段からずつとそんな感じっぽいもん

ね？あんまり変わりが…。
浅野：あんまり変わらないですね。

森：あんま変わらないから苦労しているでしょ。

竹内：本人の取り方も様々だし、仲間と支援者側との関係は、人によって多分いろいろあると思う。

森：そうだよ、あえて寄る人と寄らない人とかね。

竹内：近くに寄る人もいれば、少し遠目から見ると深い関係もあるだろうしね。

森：そうですね、それはあるね。河波さんの場合、距離感はどう？。重症心身障害者(以下重心)の人は難しいでしょう。

河波：そうですね。迷うところがあります。重心の仲間だと、わりと幼く見えてしまふんですけど、でも自分よりも年上の方で多いので、そういった方たちに言葉遣いにしても、意識しておかないと、ついつい目上の方を子どものように見てしまふ、その辺の難しさはやつぱりあります。なので、言葉遣



いななど、「何々ではないんじゃないですか」といったふう
に話さないといけないかな、とか自分の中で迷う時があり
ます。そういうのは臨機応変にいけばいいかなとも思
いますし、何が正解なのか分
らないですけど。

竹内：河波さんは接している
仲間には、ほとんど言語表現
がない？

河波：そうですね。

竹内：河波さんが言っている
ことはある程度伝わる？

河波：正直、あまり伝わって
ない方もいますし、単語レ
ベルでやりとりがある程度で
きる仲間もいますね。例えば、
話しかけて返事がない仲間
でも、話しかける様にはして
いるんですけど、そういった
時に今言ったその言葉遣い
とか、こちらが意識しないと
子どもっぽく扱ってしまうこ
とがあるんです、そういうの
はちょっと気をつけたいな
と思っています。

竹内：話しかけた時に、言葉
はなくても、表情とか何らか
の声が出る場合もあるでしょ
う？

森：出る人も出ない人もい
るね。イエス・ノーが分かる人も

いるし、全くこちらが読み取り
づらい人もいます。表情もなか
か見極めにくいし……。

竹内：その表情の変化で読み
取ったことってありますか？

河波：いぶきに入って重心の方
と初めて接したころは、みんな
同じだと思っていたのですが、
重ねて接していった、個々の声
が出た時はどういう声かなと
いうことなどは、周りの先輩の
職員に聞いて理解して、そうし
ながら気づける部分も出てく
るようになりました。

竹内：それが増えていくと大き
いんだよね。ちよつとした言葉
や音声や調子の変化が分かる
のはね。

河波：そうですね。その時の体
調にもよりますが、その時の声
のトーンとか、目や表情とか
そういういのも注意して見な
がら、これはどういう感情なの
かなど。まあ推測もあるん
ですけど。

竹内：そういうことについては、
親と話したことないの？

河波：ありますね。

竹内：そういう話、どうでしょ
う？ 親の方が接する時間が
長いから、知っていることが多
いでしょうが、それでもいぶき

に來たときの表情が、また
家と違うことを伝えるのは
大切だね。

河波：そうですね。

竹内：あまり関係ない話と
いうか、関係ない話にした
方がいいのかもしれないけ
ど……。去年の7月26日に
相模原の施設で事件が起
きたじゃない。あの犯人は、
2年半くらいあの施設で働
いていた。しかも彼の友達
と、結構真面目に勤めよう
として、かなり一生懸命やっ
ていた時期もあったんだよ
ね。しかし、19人の重度の
人を選んで殺していますよ
ね。一緒に捕まえた職員に
重度の人の部屋を聞き回っ
て、部屋を飛ばして殺して
いるでしょ。それで、そうい
うふうに職員自身がなっ
てしまったというのは、彼の特
異な精神構造のせいだと
言ってしまう簡単だけ
ど、そうでない可能性もあ
るわけですよ。つまり、職員
も親もそうなんだけど、仲
間と接している人間が、そ
の仲間を何らかの形で排除
したくなる瞬間みたいな
のはね、手にかけるまではい

かないけれど小さなところ
だったら、親だって多分ある
んですよ。例えば親が手をあ
げるその瞬間には、しつけが
例え50%あったとしても、
10%くらいは怒りの気持ち
があるというか……。

そういうのは皆さん仕事で
は感じてはない？ 面倒く
さいとかさ。

小笠原：面倒くさいと言うの
は自分は無いんですけど、あ
まり。仕事と割り切っているの
で。例えばトイレの始末で
も、表面的に「えー」とか言っ
たりはしますが、仕事だから
と思つてやっているし、パニッ
クで殴られれば「このくそー」
とか思つたりもします。

森：思つたよね？それは普通だ
よね。

小笠原：あとトイレに連れて
行けと言われて連れていった
ら、殴られ、噛まれたりする
こともあつて、「え？ 何
で？」なんて思いますよね。

竹内：そうか。それで感情を
コントロールしすぎるのもま
たね、ちよつと……。

森：それを自分の中に押し込
めちゃうのもまた問題だよ
ね。

竹内：そうしたこと発散

は。仕事の時は仕事の気持
ち、仕事の表情、そうならざ
るを得ないのかな、という気
はするのだけど。

小笠原：自分だと同系とい
いますか、保育関係に友達
がいるし、医療関係にも。そ
ういう友達と話していると、
やっぱりリンクすること
が多いんです。で、仕事の話
をしながら、まあ言葉上での
ストレス発散にはなるん
です。ちよつと強めに言っ
たりとか。というので、何と
なく感情を発散したり、パ
ートさんにこぼしたりもして
いました。

竹内：少し別の場面だけど、
公的扶助研究会という、熱
心な生活保護のケースワ
ーカーの人が手弁当で集まる
研究会があつて、公的扶助
研究という雑誌も出して
いるんだけど、その雑誌で20
年近く前、川柳を募集して
ね、今の話の本音のね。ケー
スワーカーだから日々いろ
んな苦労をしているけど、
ケースワーカーの本音を語
ろうという川柳なんです。
その中で生活保護受給者を
徹底的に馬鹿にする川柳が
多数出てきて、それを注釈



も付けずに正直に雑誌に載せたら、新聞でバンバン叩かれたことがあったんです。色々と考えさせられたんだけど、例えば一つ覚えている川柳で、「ケースの死、笑い飛ばして後始末」というのがあります。ケースと言うのは、生活保護受給者の業界用語で、簡単に言うと、一生懸命世話をしても応えてくれないし、嘘は付くし、お金はすぐ無駄遣いする等々、要するに自分が担当したそんな人が死んで、喜んでいる川柳なんです。後始末はお葬式のことですが、そこには、面倒くさい奴が居なくなつて万歳という気持ち表われている……でもそう言う人達は、日頃は熱心なケースワーカーな訳ですよ。行政的な仕事をやっていただけではなくて、自ら生活保護を良くしようと思つて手弁当で研究会もやっている。でも、そんな川柳が出てきたんです。レジュメに感情労働、公的感情と私的感情などと書きましたが、感情の次元で自分の本心がどうなのか、ということに向き合う必要がある、ということとをあの川柳は教えていると

は思うね。難しい話かもしれないけど。それは別に職員だけじゃなくて、親だつてあるね。障害という事を巡つて親が面倒くさがるのか、世間には親による虐待もある……。まあ、皆さんにはあまり関係ないのかなあ？ 福祉職について、どうしてもそんな所が気になるんだけど……。
浅野：Kさんなんですけど、よく怒つて感情をぶつけてくることであつて、何か起こせば自分に気を向けてくれるというのでやつているんだと思うのです。そう分かつていてもイライラしてしまうことが結構ありました。ただ同じレベルの感情になつていくと、話し合いも何もできないうというか……。なので、相手は怒つていても、自分は冷静な立場で、Kさんがどういう風に思っているのかを聞きつつ、こちらの思いを説明をするんですけれど、なかなかうまくいこと噛み合わないというかすごく難しいです。自分の感情を抑えることで、ストレスとか溜まつたりするんですけど、そういう時は母に言ったり、甘いものを食べたりとかかしています。

森：そうなんです。ね。
浅野：寝ると結構忘れちゃうと言ふか、ずっと怒つてられないというか、どうでもよくなつちゃう。
竹内：そうそう、どうでもよくなるのも多分大事だね、そんなことばかり考えていたらもたないよ。
森：よく反省会しているよね、職員同士でね。
浅野：そうですね。
森：意外と反省会は大事だなと思つてます、結局、毎回同じだし、一応の結論は出すのだけど、でも、どちらかというと感情の吐き出しの方が大きくて、あれですごく怒れたと。

竹内：それ毎日やつているの？
森：結構、事件があつたりすると、その後によく反省会をしているよね。
竹内：昔、第二いぶきが開所した頃は毎日やつていなかった？
森：毎日反省会です。ね。
竹内：二階の職員室でね。職員の人数も少なかったけど、第二いぶきの紹介のビデオにもなつていたよね。そうした時間が毎日あるといいのにね。
森：結局、解決されないんだけど。僕はそれで怒れてしまふというのが分かる。その場で揺れて、その感情はあるけど、でもやっぱりそこは大人にならなきゃね、みたいなのを確認して、「あ、そうだった」と思いながら次に進む、といった感じで距離が置ける、というのが大事だと思う。

竹内：いきなり解決できなくても、そういう確認をする、そのこと自身が次に繋がると思う。その意味で、ずっと流しちゃうんじゃなくて、吐き出すことなどはとても大事だと思う。
森：そつちの方が主眼になることがありますがね、意外と。話の自身よりも気持ちの確認。やっぱり気持ちが揺れるから、揺れることが前提というのがないと……。神様じゃないんで。
池田：その反省会みたいなのは、グループでやるの？ 今は結構、各チームごとに話しているよね、色々。ああいう中で仕事上の困ったことや不満だとか、愚痴だとか色々出ているのかなという気がする。
森：チームの時もありますし、同期の時もありますし、やっぱり上司には話せないことがあるから、同じ現場同士での話は大切だよ。感情は仲間とのこともあるし……。仲間自身じゃなくても意外と職員とか、パートさんとの関係で悩むこともあるから、それに応じて反省会じゃないけどちよつと確認し合つたりというのが重要だよ。



とは。

小笠原：またがないんじゃないですか。

森：北部と西部はまたがないだよ、きつと。

小笠原：ごくごくたまに、ライン送ったりします。

森：ああそうなんだ。今はラインとかがあるもんね。

小笠原：でも、自分の場合、同期でもみんな上なので、発散みたいな感じではないです。こういう困ったことがあるんだ、こんな場合もあったからこうしたらいいんじゃないかというようなやりとりは多いですけど。

竹内：医療関係に行った同級生とかとは、そういう話しはできるの？

小笠原：気のおけない友達で、小学校くらいから一緒なので、お互いの事はだいたい分かっています。その人だと全部吐き出して「あーすつきり」みたいな感じのことはあります。

池田：でも学生時代や小さい頃からの繋がり、そんな場があるのはいいね。恵まれているよね。

小笠原：そうですね。自分から連絡をとって呼び出すこ

とも多いですね。

森：河波さんはいっぱいいるじゃない、いぶきの同期が。

河波：そうですね、同期で集まっています。

小笠原：同期じゃない人も交じっていると聞きましたよ。

池田：どこでそういう繋がりがあったの？

河波：そうですね、西部の人ともよく出かける時期がありましたね。

小笠原：ほら、ここは越えているんですよ。北部の人と西部の人との関わりになっている。

池田：何で？。きょうされん全国大会に一緒に行っているんじゃない？

河波：そうですね、あと、色々誘ってくださるんで。

森：意外と距離感、最近入ってきた人達はみんなすごく上手だなとは思。僕なんか入ったとき、訳がわからなかったから、距離感がすごく近すぎて大変だったけど。最近の人達は職場の仲間と距離感を保つのが上手だな、冷静だなと思う。

池田：西部の人達も距離感

は上手にとっているね。

小笠原：でも、他の職員を見

て自分のやれなさにイライラしたり、比べてしまうこと

もありますね。比べなければいいのにとは分かっています。

全然真似もできないけど、良いところは取り入れないといけないということもありま

すから…。

森：あの人ができているのに、というのはあるよね。

小笠原：同じことをやろうとして失敗して、その人じゃないからできないのは当たり前

なんですけど、「ああー…」ってなったりしますね。

森：それはへこむよね。

竹内：福祉施設の仕事は現場だけではない訳で、管理と

か経営とか運営とかの仕事もあるでしょ。そういう仕事、森さんや池田さんは既に

やっているよね。この管理とか運営に向く人と現場に向

く人というか、管理運営の能力と、現場のコミュニケーション

労働としての福祉労働と、それぞれ能力は違うと思う

んだけどね、両方大事な

だけど、どうも一般的にみると、今まで福祉施設での管理

とか運営は、現場の労働ほどにも重視されてこなかったよ

うに思います。実は池田さん

が入る頃かな、現場の能力は

あまり考えずに、管理運営に

すぐれた人を採用試験で別

に公募して採ったらどうかと

いう議論を採用委員会です

たことがあるんだけど。若い

皆さんの頭の中に、管理とか

運営とか、直近だとリーダー

職だけど、管理もあるでしょ

うが、人事管理とか、部屋と

か施設全体の人にちゃんと

働いてもらうとか、そういう

管理職についてどう思います

か？もうちよつと言え、森

さんとか、池田さんとか、北

川さんとか、林さんとか見て

どう思うかでもいいんです

もありだと思。いぶき

だけでなく世の中全体が、

要するに管理職にならない

いと給料が上がらない仕

組みがあるでしょう。僕は

根本的にそれはおかしい

と思う。簡単には変えられ

ないだろうけど。福祉施設

は、ここを変えられれば一

番良いという気もするけ

ど。その基準をどうすかも

大きな問題だけどね。

小笠原：それこそ基準は資

格になってくるんじゃない

かな。

竹内：その社会福祉士にし

ても、介護福祉士にして

も、資格がいい加減でしょ。

小笠原：介護でも出てきま

すよね。介護福祉士を育て

る為の介護福祉士の資格

とか。

竹内：さつきでも話に出た

けど、仲間とのコミュニ

ケーションに関わる本当に

役に立つ意味のあることが

資格要件に多分あってない

資格が表面的なもので

しかない福祉、という問題

があるよね。(次号につづく)



第二いぶきの仲間たちがつくるジャムのPRイベントです！
当日は、仲間たちも一緒におもてなしします。



りすのほっぺ

第 5 回

Jam & Jazz Party.

ジャム あんど ジャズ パーティー

with 粥川なつ紀



定員70名
先着順
要事前予約

とき：2017. 11. 18sat 14:00～
13:30 開場

場所：長良川うかいミュージアム 四阿（あずまや）
〒502-0071 岐阜市長良 51-2 TEL:058-210-1555

会費：3,000円（軽食&ドリンク付）



natsuki
kayukawa

旬の素材を、無添加にこだわって丁寧に炊き上げたココロとカラダにやさしい「りすのほっぺ」のジャム。
今回は長良川と岐阜城をバックに、アンバサダー粥川なつ紀さんのサックスの音色にのせて、ジャムを使ったデザートやお菓子、パンシノンさんの香り豊かなパンと一緒に楽しめる、とびきり美味しくて贅沢なティータイムパーティーです。



申込方法

- ①お電話・メール：いぶき福祉会 第二いぶき
tel.058-229-6464（平日 9:00～17:00）
mail.risunohoppe@ibuki-komado.com
- ②チケット販売：JR 岐阜駅「ねこの約束」（10:00～19:00）

第13回

衣料品バザー



毎年恒例の衣料品バザーを開催します。
有名メーカー新品の衣料品、いぶきのこだわりのお菓子をご用意しております。
みなさまお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

売り上げは、障害のある方たちの活動の援助に使わせていただきます。

お問い合わせ先：第二いぶき

☎ 58-229-6464



スカート

500円～

パンツ

500円～

ジャケット

1,000円～

コート

1,500円～



有名メーカーのお洋服がそろっています！

日にち：11月11日（土）、12日（日）

時間：10:00～13:00

会場：生協「虹の家」

岐阜市芥見南山3-1-1

♪でもわたしもうれしい♡

おいしいお菓子も同時販売♡



ジャム



かりんとう



招き猫
マドレーヌ





後援会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

[振込先] 郵便振替 00840=3=91146
加入者名 いぶき福祉会後援会
[年会費] 一般会員：一口 2,000円 団体会員：一口 10,000円
[お問合せ] いぶき福祉会後援会事務局
TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140
E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp (タイトルに後援会員と入れて下さい)



- オンラインでの入金もできるようになりました。下記のアドレスやQRコードよりアクセスしてください。

いぶき福祉会
canpan決済

<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>



- 後援会への入会はJR岐阜駅の「ねこの約束」でも手続きしていただけます。

編集後記

津久井やまゆり園の事件が起きて1年余り経過した、当初は優生思想や、社会病理の問題だとする論評が多かったが、一面的にとらえるのは危険だ。社会病理が普段の社会生活を席巻しているとも思えないし、ましてドイツの優成思想は官僚と医師とが組織的計画的に安楽死を実行したのである。ネット上では犯人の思想にくみするような書き込みもあるようだが、この犯人はほとんど思い付きのようなもので障害者を襲撃し残虐に葬っただけなのである。私たちはこの事件を重く受け止め、これからも『障害者から生きる場所や生命を奪うことを誰も正当化できない』このことを主張し続けることが、大切だと考える。

編集委員長 林守男

